

第71回 漢方教室

新型コロナと漢方

～感染症対策に生かす漢方の知恵～

東海大学医学部専門診療学系漢方医学 野上達也

1. 漢方は急性熱性疾患対策として始まった

傷寒論（張仲景、後漢）（しょうかんろん）

序文

我が一族は以前は二百余名もいたが、建安元年（196年）から十年足らずの間に2/3が死亡した。このうち、傷寒病（急性熱性疾患）で死んだ者が10のうち7を占めた。

（中略）そこで一大決心をして（中略）古人の経験や教訓を研究し、多くの医師や民間の薬方を広く研究し、素門などの古医書を参考にして、傷寒雑病論を書き上げた。

2. 新型コロナウイルス感染症

1) 「新型コロナウイルス COVID-19」とは、どのようなウイルスですか。

- ・ 新型コロナウイルスのひとつ
- ・ 新型コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれる。
- ・ 新型コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種（一本鎖RNAウイルス）で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた二重の膜を持っている。
- ・ ウイルスは粘膜などの細胞に付着して入り込んで増える。
- ・ ウイルスは健康な皮膚には入り込むことがない。
- ・ 手洗いは、ウイルスを流すことができるため有効。石けんを使った手洗いは新型コロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効。
- ・ 消毒用アルコールも脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができる。

2) 新型コロナウイルス感染症の治療にはどのような薬がありますか

- ・ 軽症者向けの経口薬
 - ラゲブリオカプセル（有効成分：モルヌピラビル）
 - パキロビッドパック（有効成分：ニルマトレルビル／リトナビル）
 - ゾコーバ錠（有効成分：エンシトレルビル フマル酸）

- ・ラゲブリオカプセル及びゾコーバ錠は、動物実験で催奇形性あり。妊婦又は妊娠している可能性のある女性は投与禁忌。
- ・パキロビッドパック及びゾコーバ錠は、複数の薬剤が併用禁忌。
- ・ラゲブリオカプセル及びパキロビッドパックは発症から5日以内に、ゾコーバ錠は発症から3日以内に服用する必要がある。

3. 漢方薬と新型コロナウイルス感染症

- ・効能効果に「新型コロナウイルス感染症」を持つ医療用漢方エキス製剤はない。
- ・健康保険で認められた様々な病態に対して医療用漢方エキス製剤を応用する。
- ・新型コロナウイルス感染症急性期、新型コロナウイルス罹患後症状にも応用する。
- ・医療用漢方エキス製剤はさまざまな「症候」に対して適応を持っている。
- ・さまざまな病態を取る Post COVID-19 condition に対して漢方薬を用いることできめ細かく対応することが可能。
- ・COVID-19 急性期＝〇〇湯、Post COVID-19 condition＝〇〇湯、と単純化は困難。

4. 新型コロナウイルス感染症急性期症状と漢方治療

- ・IMJEDI study observation について
- ・通常の特症療法を行った人と、特症療法＋漢方薬で治療を受けた人を比較
- ・解熱までの期間は、両群で統計学的な差はない。
- ・COVID-19 症例でステロイドを使用しない場合、早期の漢方治療が病状悪化リスクを抑制する可能性がある
- ・小柴胡湯加桔梗石膏（しょうさいことうかききょうせっこう）、葛根湯（かっこんとう）、麻杏甘石湯（まきょうかんせきとう）、五苓散（ごれいさん）が高頻度に用いられていた。
- ・急性期の新型コロナウイルス感染症には葛根湯（かっこんとう）、麻黄湯（まおうとう）、麻黄附子細辛湯（まおうぶしさいしんとう）など
- ・亜急性期には小柴胡湯（しょうさいことう）やその類方、補中益気湯（ほちゅうえつきとう）など

5. 新型コロナウイルス罹患後症状と漢方治療

- ・倦怠感・無気力、咳、抑うつ、味覚障害・嗅覚障害の頻度が高い。
- ・気血水論は新型コロナウイルス罹患後症状への対策を考える際に有用。
- ・気の失調状態
 - ＜気虚（ききょ）＞ 気の不足 … 元気がない、易疲労感

<気滞 (きたい) > 気の停滞 … 喉や胸のつかえ、腹のはり

<気逆 (きぎゃく) > 気の上衝 … のぼせ、動悸

・ 血の失調状態

<瘀血 (おけつ) > スラスラと流れるべき血の流れが滞った状態

<血虚 (けっきょ) > 血と血の働きの不足、貧血、皮膚乾燥

・ 水の失調状態

<水滞 (水毒) (すいたい) > 浮腫、胸水、めまい、水様性鼻汁など

・ 倦怠感は気血両虚と考えると、十全大補湯 (じゅうぜんたいほう) を用いるとよい。
腎虚を併発する場合には、八味地黄丸 (はちみじおうがん) を兼用する。

・ 気滞の咳には、半夏厚朴湯 (はんげこうぼくとう) を用いる。

・ 気逆の咳には、麦門冬湯 (ばくもんどうとう) がよい。

・ 抑うつには、気滞・気虚と考えると帰脾湯 (きひとう) や加味帰脾湯 (かみきひとう) を用いるとよい。

・ 嗅覚障害に対して漢方治療は有用か？

後ろ向き検討で感冒後嗅覚障害に対する当帰芍薬散 (とうきしゃくやくさん) の治療効果を示唆する国内からの報告を複数認める。